

春節について

皆さん、明けましておめでとうございます。

月日が経つのは早いもので、いつのまにかまた一年の歳月が流れました。私も神奈川県に来てから早くも8ヶ月が経ちました。神奈川県で皆さんと一緒に新しい一年を迎えました。中国の新年（春節）と日本の新年は祝い方は違います。中国「史記」の中に「百里の内に同じ風はなく、千里の内に同じ風俗はない」という諺があります。中国では地域によって、様々な春節の特色があります。今回のレポートは春節についての基礎知識と私の故郷の楽しみ方を紹介したいと思います。

春節は中国人にとって最大のお祭りです。一般的に「除夕」と旧暦の「正月初一」を指します。「正月初一」は新年の第一日です。中国の休日は春節の大晦日「除夕（「大年三十」ともいう）」から1週間です。春節を迎えるために、中国のどこでも、大通りや路地が飾り付けら

れます。道路の両側の街灯は大きい赤灯籠か、一本の紐に結ばれた「中国結び」が掛けられます。中国で灯籠には繁盛、平安、幸福という象徴的な意味合いが込められています。中国語の「結」は、よいことを意味する「吉」と発音が似ているため、健康、長寿、平安、幸福、団欒といったニュアンスを含むめでたい飾り物となりました。また建物や樹木などはライトアップされます。どこもカラフルな灯の海みたいな世界で、とても美しいです。



(故郷盤錦市の夜景写真)

私の故郷での春節の過ごし方は、旧暦12月23日（小年）から、家で大掃除をします。大晦日（除夕）の朝は春聯や、門や入口の戸に、おめでたい対句と「福」字を貼ります（「福」字は「幸せ」や「幸」という意味があり、時々「福」の字を逆さまに貼ることで「幸福が来た」ということを表しています）。大晦日の夜は家族で餃子を作ったり、爆竹を鳴らしたり、家族でテレビ番組「春節聯歡晚会（日本の紅白歌合戦のようなもの）」を見ながら新しい年を迎えます。

一番重要な日は大晦日（旧暦12月31日）の夜で、一家団欒の時間です。故郷を出て働いている人たちはこの日までに必ず自分の故郷の実家へ帰ります。そのときは全国で帰省ラッシュがおこり、長距離バスや汽車や飛行機の切符を入手するのが極めて難しくなります。家族と団欒したいという気持ちが強いので、たとえどのように難しくても、いかなる代価を払っても故郷へ帰らなければなりません。大晦日の昼には、家族で一緒に年越し料理を作り、昼ご飯を食べる前に必ず爆竹を打ち上げます。なぜでしょうか？皆様はきっと疑問に思うでしょう。爆竹を打ち上げることで、一家でこれからご飯を食べるということを知らせるのです。これも風俗習慣です。年越し料理は地域により、

食べ方も違います、様々な食べ方があります。私の故郷のところで必ず食べる年越し料理は鶏、魚、肉です。鶏料理は鶏のおなかにいろいろな調味料を入れ、蒸して食べます。中国語の鶏の発音は「吉」と似ています。「吉」には吉祥、如意という良い意味があります。魚料理は醤油で焼いて食べます。中国語の魚の発音は「余」と同じです。「余」は富裕、隆盛という良い意味があります。肉は細かくして、丸い形にして、スープの中でよく煮て食べます。肉団子は一家で団欒して幸せな生活をするという象徴的な意味合いが込められています。そして三つの料理は中国語で「吉祥如意、年々有余、団団園園」という良い意味があるので、どの家でも食べるはずです。



大晦日の夜には一家で餃子を作ります。昔の金の形に包まれ、山盛りに盛られた餃子はお金持ちになるという意味を持っており、そしてきれいに洗ったコインを餃子の中に包んでおき、一番先に食べた人は、今年お金持ちになれると言われていています。これは本当に実現するかわかりませんが、みんなの願望です。夕飯を食べ終わると、子供たちは年長者に額を地につけて拝礼し、年長者は子供たちにお年玉（ホンボウ、压岁錢）をあげます。压岁錢をもらった子供は平安に一年を過ごすと言われてます。その後、家族で麻雀をしたり、親戚の家に新年の挨拶したり、爆竹と花火を打ち上げたりします。



中国は広いので各地の春節に関する風俗がたくさんあります。皆さん、百聞は一見に如かず、もし興味があったら、ぜひ中国の各地にいらっしやって春節を体験してくださいね！